

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年5月13日
【四半期会計期間】	第16期第3四半期（自平成27年1月1日至平成27年3月31日）
【会社名】	株式会社ボルテージ
【英訳名】	Voltage Incorporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横田 晃洋
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部管轄 松永 浩
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部管轄 松永 浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期連結 累計期間	第16期 第3四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自平成25年7月1日 至平成26年3月31日	自平成26年7月1日 至平成27年3月31日	自平成25年7月1日 至平成26年6月30日
売上高 (千円)	7,451,823	7,875,426	10,082,506
経常利益 (千円)	495,989	248,912	646,096
四半期(当期)純利益 (千円)	204,496	91,814	291,690
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	205,870	129,139	289,247
純資産額 (千円)	3,492,682	3,631,814	3,586,126
総資産額 (千円)	4,872,711	4,757,201	5,031,921
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	40.30	17.91	57.37
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	39.63	17.68	56.51
自己資本比率 (%)	71.4	76.0	70.8

回次	第15期 第3四半期連結 会計期間	第16期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成26年1月1日 至平成26年3月31日	自平成27年1月1日 至平成27年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	18.21	19.32

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)財政状態の分析

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、4,757,201千円（前連結会計年度末比274,719千円減）となりました。

流動資産は、3,574,741千円（前連結会計年度末比548,579千円減）となりました。その主な要因は、現金及び預金が519,434千円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、1,182,459千円（前連結会計年度末比273,859千円増）となりました。その主な要因は、無形固定資産が139,440千円増加したこと等によるものであります。

(負債の部)

負債は、1,125,386千円（前連結会計年度末比320,408千円減）となりました。

流動負債は、1,125,386千円（前連結会計年度末比320,408千円減）となりました。その主な要因は、未払法人税等が307,559千円減少したこと等によるものであります。

(純資産の部)

純資産は、3,631,814千円（前連結会計年度末比45,688千円増）となりました。その主な要因は、為替換算調整勘定が34,981千円増加したこと等によるものであります。

(2)経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調がつづくなかで、企業収益は改善の動きがみられました。また、個人消費は、消費者マインドに弱さがみられるなかで、底堅い動きとなっております。

モバイルビジネスを取り巻く環境は、スマートフォン契約比率（注1）は、平成26年12月に構成比52.3%となっております（注2）。モバイルゲーム市場については、成長率の鈍化はみられるものの、OS系PF（注3）向けのアプリを中心に今後も拡大していく見通しとなっております。

このような環境の下、当社グループは、「恋愛と戦いのドラマ」をひたむきに追求しつづけるとともに、当期は、中期目標を達成すべく、恋愛ドラマアプリのノウハウを米国・サスペンスアプリへ展開し、市場を拡大していくことで、さらなる収益拡大に努めています。

売上は、日本語市場において、恋愛ドラマアプリのF2P（注4）は、前年同期比でソーシャル専門PF（注5）向けが減少しましたが、OS系PF向けが増加し、計画通りとなりました。P2P（注6）は、前年同期比でOS系PF向けが増加しましたが、キャリア公式PF（注7）向けがPF環境の変化に伴い減少し、計画を若干下回りました。また、サスペンスアプリは、前年同期比で大幅に増加しましたが、計画を下回りました。英語市場においては、L10N（注8）タイトルが順調に増加しました。US REAL（注9）は新規タイトルのリリース遅延等により減少しました。全体としては、前年同期比で増加し、計画通りとなりました。

費用は、OS系PF向け売上の増加による販売手数料の増加、増員による人件費の増加、OS系タイトルの増加等に伴う制作外注費の増加、東京ゲームショウ出展等による支払手数料の増加等があり前年同期比では増加しました。広告宣伝費については、テレビCMを出稿しましたが、モバイル広告投下の回収基準を厳格化する等、効率的に使用し、前年同期比で減少しました。

利益は、前年同期比で減少しましたが、計画比で大幅に増加しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は7,875,426千円（前年同期比5.7%増）、営業利益224,476千円（前年同期比52.4%減）、経常利益248,912千円（前年同期比49.8%減）、四半期純利益91,814千円（前年同期比55.1%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間の主な取り組みは、以下の通りであります。

(日本語市場)

・恋愛ドラマアプリ (F2P)

既存タイトル「天下統一恋の乱 Love Ballad」「ルームシェア素顔のカレ Love Days」が好調に推移しました。集客は、平成27年1月に投稿した「ルームシェア素顔のカレ Love Days」のテレビCMにおいて、目標の10か月回収(注10)を達成する見込みであります。

・恋愛ドラマアプリ (P2P)

新規タイトル「大人の初恋、はじめます」等が順調に立ち上がりました。既存タイトルは「上司と秘密の2LDK」「特別捜査 密着24時」等が順調に推移しました。集客は、平成27年1月に投稿した「上司と秘密の2LDK」のテレビCMにおいて、目標の10か月回収を達成する見込みであります。

・サスペンスアプリ

既存タイトル「新・生存率0%! 地下鉄からの脱出」「ゴシップライター ~消えたアイドルを救え!~」において、女性キャラ攻略ストーリー形式の新しいイベントを実施し、課金率及びARPPUが向上しました。集客は、現在制作進行中の3アプリ目の配信後、KPI測定を行い、広告再開を判断します。

(英語市場)

L10Nタイトルにおいては、新規タイトル「Sleepless Cinderella: PARTY(注11)」「Star-Crossed Myth(注12)」「Scandal in the Spotlight(注13)」が好調に立ち上がりました。既存タイトルは「My Forged Wedding: PARTY(注14)」「Kissed by the Baddest Bidder(注15)」等が順調に推移しました。SFスタジオにおいては、US REAL既存タイトル「Queen's Gambit」のKPI向上を図るとともに、初の試みとなるUS REAL F2P新規タイトル、DRAGON(注16)新規タイトルの制作に取り組みました。

(注)

1. スマートフォン契約比率：スマートフォンとフィーチャーフォンを合わせた端末総契約数に占めるスマートフォンの割合
2. 出所：株式会社MM総研「2014年国内携帯電話端末出荷概況」2015年2月3日発表
3. OS系PF：App Store、Google Play等のアプリマーケット
4. F2P：Free-to-Playの略称。基本プレイ無料・アイテム課金制のコンテンツ
5. ソーシャル専用PF：GREE、Mobage、mixi、Ameba等のSNS PF
6. P2P：Pay-to-Playの略称。ストーリー単位の個別課金制のコンテンツ
7. キャリア公式PF：NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルが運営するサイト
8. L10N：北米市場向けアニメ絵であり、日本語恋アプを翻訳したコンテンツ。Localizationを意味する省略表記
9. US REAL：北米市場向けリアル絵のコンテンツ(旧：USオリジナル)
10. CM10か月回収：CMに投下した広告宣伝費を10か月の売上で上回ること
11. 邦題：「眠らぬ街のシンデレラ」
12. 邦題：「恋してしまった星の王子」
13. 邦題：「偽りの君とスキャンダル」
14. 邦題：「誓いのキスは突然に」
15. 邦題：「スイートルームで悪戯なキス」
16. DRAGON：北米市場向けアニメ絵であり、北米市場向けに作ったコンテンツ。北米向けにアレンジされたドラゴンロール寿司に由来

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,120,000
計	15,120,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年5月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,138,067	5,138,067	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株となっております。
計	5,138,067	5,138,067	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成27年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成27年1月1日～ 平成27年3月31日 (注)	10,300	5,138,067	5,270	919,475	5,270	885,075

(注)新株予約権の行使による増加であります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,125,100	51,251	権利内容に限定のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,467	-	-
発行済株式総数	5,127,767	-	-
総株主の議決権	-	51,251	-

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ボルテージ	東京都渋谷区恵比寿 四丁目20-3	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日から平成27年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,201,178	1,681,743
売掛金	1,836,738	1,740,116
前払費用	41,394	63,015
繰延税金資産	39,610	74,337
その他	8,504	17,135
貸倒引当金	4,105	1,605
流動資産合計	4,123,321	3,574,741
固定資産		
有形固定資産	241,465	306,317
無形固定資産	364,650	504,091
投資その他の資産	302,483	372,050
固定資産合計	908,599	1,182,459
資産合計	5,031,921	4,757,201
負債の部		
流動負債		
買掛金	155,799	156,013
未払金	20,935	10,658
未払費用	794,761	734,119
未払法人税等	307,559	-
賞与引当金	-	107,839
その他	166,739	116,755
流動負債合計	1,445,794	1,125,386
負債合計	1,445,794	1,125,386
純資産の部		
株主資本		
資本金	908,660	919,475
資本剰余金	874,260	885,075
利益剰余金	1,762,594	1,757,210
自己株式	196	196
株主資本合計	3,545,319	3,561,565
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	794	1,548
為替換算調整勘定	18,224	53,205
その他の包括利益累計額合計	17,429	54,754
新株予約権	23,377	15,495
純資産合計	3,586,126	3,631,814
負債純資産合計	5,031,921	4,757,201

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
売上高	7,451,823	7,875,426
売上原価	2,454,683	2,859,199
売上総利益	4,997,140	5,016,226
販売費及び一般管理費	4,525,261	4,791,750
営業利益	471,878	224,476
営業外収益		
受取利息	565	605
受取配当金	3	60
為替差益	22,699	18,985
雑収入	873	4,834
営業外収益合計	24,142	24,485
営業外費用		
雑損失	32	50
営業外費用合計	32	50
経常利益	495,989	248,912
特別損失		
固定資産除却損	5,800	-
特別損失合計	5,800	-
税金等調整前四半期純利益	490,188	248,912
法人税、住民税及び事業税	359,415	187,388
法人税等調整額	73,722	30,290
法人税等合計	285,692	157,097
少数株主損益調整前四半期純利益	204,496	91,814
四半期純利益	204,496	91,814

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	204,496	91,814
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	893	2,343
為替換算調整勘定	2,267	34,981
その他の包括利益合計	1,373	37,324
四半期包括利益	205,870	129,139
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	205,870	129,139

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
減価償却費	192,830千円	258,343千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成26年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年9月26日 定時株主総会	普通株式	95,646	19.0	平成25年6月30日	平成25年9月27日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成26年7月1日至平成27年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年9月25日 定時株主総会	普通株式	97,199	19.0	平成26年6月30日	平成26年9月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	40円30銭	17円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	204,496	91,814
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	204,496	91,814
普通株式の期中平均株式数(株)	5,074,533	5,127,106
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	39円63銭	17円68銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	85,023	66,920
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年5月13日

株式会社ボルテージ

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田邊晴康 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 岩尾健太郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ボルテージの平成26年7月1日から平成27年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日から平成27年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ボルテージ及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。